

ロータリー活動・会員増強に対する提言

五城目ロータリークラブ
親睦委員長 藤本 正善

私がRC会長を務めた年は2007～2008年でした。

任期中は退会者のないように努力した強い思いがありました。

当時、日本の経済状況は有名デパートの閉店、誘致企業の撤退、就職難、リストラ、国家予算のカット、公共事業の削減、シャッター通りという聞き慣れない用語で、地方は疲弊していく一方で「きっと明日は良くなる」は掛け声なのか、やはり下向線を辿る一方なのか。そんな矢先、ロータリーの会員になりませんか、私と同じく会社奉仕をして地域を明るく活気ある町にしていきませんかと呼び掛けたとしてもどうだろうか、難問にちがいないと思う。

護りのロータリーに窮した感を否めない、その後親睦を担当してからは、クリスマス家族会、新年会、花見例会、出席委員会のもと出席促進のため毎月第2例会を夕食例会として、各委員会協力のもとに親睦は深められている、しかし会員増強に繋がらない、これは何を意味するのか。

国際奉仕・新世代委員会は特に学童野球大会の実施、優勝旗にロータリーマークを付け、優勝校学童を讃える活動をして、父兄から感謝されている、アピールが浸透している、社会に地域に必要なクラブとして変身つつある、必要クラブと認識されることが会員増強に繋がることを強く思います。

また、会費の3回分割納入、他クラブとの交流例会、公共へのロータリー会員募集看板の掲示、一考のことと思います。